

# JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY



JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

## News Letter

Vol. 8, No. 1, 2004

発行：2004年4月1日  
日本心不全学会  
Japanese Heart Failure Society  
<http://www.jhfs.gr.jp/>

### CONTENTS

- |    |  |
|----|--|
| 1  | 新理事長の抱負<br>●堀 正二 (大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)                              |
| 2  | 日本心不全学会新組織   |
| 5  | 第8回日本心不全学会総会・学術集会のお知らせ<br>●藤原久義 (岐阜大学)                               |
| 13 | 〈心不全治療のトピックス〉 拡張不全による心不全に対する臨床試験について<br>●山本一博 (大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学) |
| 16 | 学会カレンダー (2004年)  |
| 17 | 日本心不全学会 News Letter 編集事務局・日本心不全学会事務局よりお知らせ                           |

### 新理事長の抱負

本年4月から北島 顕前理事長から、新理事長の職を引き継ぎました。微力ながら心不全学会の発展のために精一杯努力致したいと存じますので、会員の皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

日本心不全学会は、篠山 重威 初代理事長の下に1998年設立された若い学会であります。米国心不全学会、欧州心臓病学会心不全ワーキンググループと共に、世界の3極の一つとして設立され、現在約1000名の会員を擁しています。学会誌 J. Cardiac Failure を米国心不全学会と共有し、季刊発行で会員に配布されています。このような経緯で当初より国際性を保つため、年次集会における発表も英語中心に行われてきました。また、海外から多くの研究者を招聘し、その内容も国際レベルに恥じないものとなっています。しかし、症例の検討や臨床的な発表は英語が抵抗因子になり、参加者の伸び悩みの原因となっているため、第7回年次学術集会を主宰したときに英語発表の緩和措置をとり、それが功を奏してか多くの参加者を得ることができました。今後共この方針で学術集会を運営していきたいと考えています。

日本心不全学会も初期の序走期を終えて、第2ステージに入ってきたように感じます。会員もやっと1000名を超え、学会誌も定着し、米国心不全学会、欧州心臓病学会心不全ワーキンググループとの連携も一段落したように思います。国内では、幾つかの心不全に関する調査研究(J-CARE, J-CARD)や介入試験(β遮断薬の至適用量設定に関するJ-CHF試験や拡張期心不全の治療法の選択に関するJ-DHF試験)が1000例を超える規模で開始されています。これらは、いずれも日本循環器学会の後援で進められていますが、日本心不全学会も積極的にその推進を支援していきたいと考えています。ご存知のように、慢性心不全に対する両心室同期ペーシング療法は施設認定のために講習会の受講が義務付けられていますが、この講習会は、日本心不全学会と日本ペーシング学会の共同主催によるものであります。今後共、心不全に関する事業については積極的な貢献をしていきます。また教育研修委員会で学会のホームページを立ち上げていただきましたので、広報活動にも力をいれ、会員への情報提供と新会員の入会促進をすすめたいと存じます。学会運営の経済的基盤は未だ脆弱で十分な活動も出来ない状況ではありますが、会員増と収入増を図って、各種委員会活動が活性化することを念願しております。会員諸氏の忌憚ないご叱責とご支援を切にお願い申し上げます。

理事長

堀 正二

(大阪大学大学院 病態情報内科学)

#### 日本心不全学会組織

- 理事長 堀 正二
- 理事
 

|      |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 磯部光章 | 井上 博 | 今泉 勉 | 大江 透 | 小川 聡 | 笠貫 宏 | 北島 顕 |
| 白土邦男 | 竹下 彰 | 友池仁暢 | 土居義典 | 永井良三 | 菱田 仁 | 藤原久義 |
| 松崎益徳 | 松田 暉 | 山口 巖 | 横山光宏 | 吉川純一 |      |      |
- 監事 和泉 徹
- 評議員 藤田正俊
- 相澤義房 麻野井英次 東 純一 安達 仁 飯島俊彦 井内和幸 池田宇一
- 石川利之 石川義弘 石田良雄 石橋 豊 和泉 徹 磯部光章 磯山正玄
- 一色高明 伊藤隆之 伊藤 宏 伊藤 正明 井上 博 猪又孝元
- 今泉 勉 岩坂壽二 岩瀬三紀 上嶋健治 上田清悟 上床博久
- 遠藤政夫 大内尉義 大木 崇 大草知子 大津欣也 大塚邦明
- 大塚定徳 大塚知明 大森浩二 岡本 洋 小川研一 小川 聡
- 小川久雄 落合久夫 甲斐久史 加賀谷豊 川口秀明 柿木滋夫 笠貫 宏
- 梶谷定志 加藤法喜 金子 昇 岸田 浩 木島祥行 北 徹 北浦 泰
- 河野 了 神原啓文 菊池健次郎 木村一雄 河野雅和 小室一成 児玉逸雄 楠岡英雄
- 北風政史 北島 顕 木原康樹 倉林正彦 小林直彦 齋藤能彦 重松裕二 是恒之宏
- 久保田徹 倉林正彦 上月正博 小西 孝 齋藤大治 澤 芳樹 住吉徹哉 朔啓二郎
- 小玉 誠 小西 孝 齋藤大治 澤 芳樹 砂川賢二 鷹津久登 高野照夫 島田和幸 島田俊夫
- 後藤葉一 犀川哲典 佐々木達哉 佐藤直樹 菅原基晃 高橋利之 高橋正明 世古義規
- 佐久間一郎 白土邦男 高田 淳 瀧澤明憲 田中啓治 鄭 忠和 中島久宣 永田正毅 野崎士郎 長谷川浩二 原 裕二 福田恵一 堀 正二 増山 理 松村忠史 三嶋正芳 宗像一雄 森下竜一 矢野雅文 山本啓二 李 鍾大
- 東 純一 石田良雄 伊藤隆之 岩瀬三紀 大江 透 大西勝也 小野幸彦 金子 昇 菊池健次郎 木原康樹 上月正博 小林直彦 齋藤大治 佐藤直樹 菅原基晃 高田重男 瀧澤明憲 田中 昌 寺岡邦彦 中島康秀 南都伸介 能沢 孝 長谷部直幸 久留一郎 福並正剛 堀江 稔 松井 忍 松本万夫 水重克文 村田眞司 森本紳一郎 山岸正和 横田充弘 渡辺佐知郎
- 安達 仁 石橋 豊 伊藤 宏 上嶋健治 大木 崇 大森浩二 甲斐久史 加納達二 岸田 浩 木村一雄 河野雅和 小林洋一 齋藤宗靖 澤 芳樹 砂川賢二 鷹津久登 竹下 彰 玉木長良 富田籌夫 中野 越 錦見俊雄 野原隆司 塙 晴雄 平岡昌和 藤井 聡 本田 喬 松岡博昭 馬淵 宏 光藤和明 毛利正博 安田慶秀 山口清司 吉川純一 渡部秀人
- 飯島俊彦 和泉 徹 伊藤正明 上田清悟 大草知子 岡本 洋 加賀谷豊 川口秀明 木島祥行 木村次郎 甲谷哲郎 駒村和雄 齋藤能彦 重松裕二 住吉徹哉 高野照夫 武田信彬 近森大志郎 友池仁暢 中村元行 西村恒彦 野村憲和 羽野卓三 平山篤志 藤原久義 前原和平 松田直樹 三浦哲嗣 宮内 卓 望月正武 安村良男 山科 章 吉川 勉
- 井内和幸 磯部光章 井上 博 上松正明 大津欣也 小川研一 柿木滋夫 川嶋成乃亮 北 徹 許 俊鋭 児玉逸雄 小室一成 酒井 俊 島田和幸 清野精彦 高橋利之 武智 茂 葛本尚慶 豊岡照彦 中村由紀夫 西山信一郎 橋本哲男 濱田希臣 廣江道昭 藤原久義 前原和平 松田直樹 三浦哲嗣 宮内 卓 百村伸一 柳澤輝行 山辺 裕 吉田 章
- 池田宇一 磯山正玄 猪又孝元 上床博久 大塚邦明 小川 聡 笠貫 宏 川名正敏 北浦 泰 楠岡英雄 児玉和久 是恒之宏 朔啓二郎 島田俊夫 世古義規 高橋正明 竹村元三 筒井裕之 土居義典 永井良三 布田伸一 橋本俊雄 林 秀晴 廣瀬邦彦 星田四朗 牧野直樹 松田 暉 三浦俊郎 宮武邦夫 盛岡茂文 矢野捷介 山本一博 米持英俊

(50音順, 敬称略)

#### 賛助会員一覧 (平成16年3月17日現在, 50音順)

- |   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <p><b>あ</b></p> <p>アストラセネガ株式会社<br/>エーザイ株式会社<br/>大塚製薬株式会社</p> <p><b>さ</b></p> <p>塩野義製薬株式会社</p> | <p><b>た</b></p> <p>田辺製薬株式会社<br/>第一サントリーファーマ株式会社<br/>第一製薬株式会社<br/>財団法人 体質研究会<br/>大正富山医薬品株式会社<br/>大日本製薬株式会社</p> | <p>帝人ファーマ株式会社<br/>在宅医療開発部</p> <p><b>な</b></p> <p>日本化薬株式会社<br/>日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社<br/>日本メジフィジックス株式会社</p> | <p><b>は</b></p> <p>バイエル薬品株式会社<br/>萬有製薬株式会社<br/>ファイザー製薬株式会社<br/>フクダ電子株式会社</p> |
|---|---|--|--|

## 日本心不全学会組織

理事長 堀 正二

理事 磯部光章 井上 博 今泉 勉 大江 透 小川 聡

笠貫 宏 北畠 顕 白土邦男 竹下 彰 友池仁暢

土居義典 永井良三 菱田 仁 藤原久義 松崎益徳

松田 暉 山口 巖 横山光宏 吉川純一

監事 和泉 徹 藤田正俊

評議員 相澤義房 麻野井英次 東 純一 安達 仁 飯島俊彦

井内和幸 池田宇一 石川利之 石川義弘 石田良雄

石橋 豊 和泉 徹 磯部光章 磯山正玄 一色高明

伊藤一輔 伊藤隆之 伊藤 宏 伊藤正明 井上 博

猪又孝元 今泉 勉 岩坂壽二 岩瀬三紀 上嶋健治

上田清悟 上松正朗 上床博久 遠藤政夫 大内尉義

大江 透 大木 崇 大草知子 大津欣也 大塚邦明

大塚定徳 大塚知明 大西勝也 大森浩二 岡本 洋

小川研一 小川 聡 小川久雄 落合久夫 小野幸彦

甲斐久史 加賀谷豊 柿木滋夫 笠貫 宏 梶谷定志

加藤法喜 金子 昇 加納達二 川口秀明 川嶋成乃亮

川名正敏 河野 了 神原啓文 菊池健次郎 岸田 浩

木島祥行 北 徹 北浦 泰 北風政史 北畠 顕

木原康樹 木村一雄 木村玄次郎 許 俊鋭 楠岡英雄

久保田徹 倉林正彦 上月正博 河野雅和 甲谷哲郎

児玉逸雄 児玉和久 小玉 誠 小西 孝 小林直彦

小林洋一 駒村和雄 小室一成 是恒之宏 後藤葉一

犀川哲典 齋藤大治 齋藤宗靖 齋藤能彦 酒井 俊

朔啓二郎 佐久間一郎 佐々木達哉 佐藤直樹 澤 芳樹

重松裕二 島田和幸 島田俊夫 島本和明 白土邦男

菅原基晃 砂川賢二 住吉徹哉 清野精彦 世古義規  
曾根孝仁 高田 淳 高田重男 鷹津久登 高野照夫  
高橋利之 高橋正明 滝澤明憲 瀧下修一 瀧原圭子  
竹下 彰 武田信彬 武智 茂 竹村元三 田中啓治  
田中 昌 田内 潤 玉木長良 近森大志郎 葛本尚慶  
筒井裕之 鄭 忠和 寺岡邦彦 寺崎文生 富田籌夫  
友池仁暢 豊岡照彦 土居義典 中島久宣 中島康秀  
中谷武嗣 中野 赴 中村元行 中村由紀夫 永井良三  
永田正毅 南都伸介 西垣和彦 錦見俊雄 西村恒彦  
西山信一郎 布田伸一 野崎士郎 能沢 孝 野々木宏  
野原隆司 野村憲和 橋本哲男 橋本俊雄 長谷川浩二  
長谷部直幸 土師一夫 塙 晴雄 羽野卓三 濱田希臣  
林 秀晴 原 裕二 久留一郎 菱田 仁 平岡昌和  
平山篤志 廣江道昭 廣瀬邦彦 福田恵一 福並正剛  
福山尚哉 藤井 聡 藤田正俊 藤原久義 星田四朗  
堀 正二 堀江 稔 堀川良史 本田 喬 本田俊弘  
前原和平 牧野直樹 増山 理 松井 忍 松浦秀夫  
松岡博昭 松崎益徳 松田直樹 松田 暉 松村忠史  
松本万夫 松森 昭 馬淵 宏 丸山幸夫 三浦哲嗣  
三浦俊郎 三嶋正芳 水重克文 三田村秀雄 光藤和明  
湊口信也 宮内 卓 宮武邦夫 宗像一雄 村田眞司  
室原豊明 毛利正博 望月正武 百村伸一 盛岡茂文  
森下竜一 森本紳一郎 矢崎善一 安田慶秀 安村良男  
柳澤輝行 矢野捷介 矢野雅文 山岸正和 山口 巖  
山口清司 山科 章 山辺 裕 山本一博 山本啓二  
横田充弘 横山光宏 吉川純一 吉川 勉 吉田 章  
米持英俊 李 鍾大 渡辺佐知郎 渡辺 淳 渡部秀人

(50音順, 敬称略)

|         |
|---------|
| 役 割 分 担 |
|---------|

- 総務委員会 \*白土邦男, 和泉 徹, 磯部光章, 井上 博, 今泉 勉,  
大江 透, 北畠 顕, 土居義典, 菱田 仁, 松田 暉
- 財務委員会 \*山口 巖, 土居義典, 笠貫 宏, 藤原久義, 横山光宏
- 学術委員会 \*藤原久義, 和泉 徹, 今泉 勉, 小川 聡, 友池仁暢,  
永井良三, 松田 暉, 松崎益徳
- 教育研修委員会 \*松崎益徳, 井上 博, 笠貫 宏, 白土邦男, 永井良三,  
菱田 仁, 横山光宏  
(ホームページ・広報委員会兼任)
- 出版・編集委員会 \*竹下 彰, 磯部光章, 大江 透, 笠貫 宏, 松崎益徳,  
山口 巖, 藤田正俊
- 規約委員会 \*北畠 顕, 今泉 勉, 白土邦男, 竹下 彰, 吉川純一,  
藤田正俊
- 国際交流委員会 \*吉川純一, 和泉 徹, 小川 聡, 竹下 彰, 友池仁暢,  
永井良三

(\*は委員長, 50音順, 敬称略)

### 第8回日本心不全学会学術集会

#### -Cell Death and Regeneration of Cardiovascular Diseases-

会 期 2004年 9月30日(木)~10月2日(土)  
会 場 長良川国際会議場  
会 長 藤原 久義(岐阜大学大学院医学研究科再生医科学・循環器内科学専攻 教授)  
事務局 岐阜大学大学院医学研究科再生医科学専攻再生応用(循環器内科学)内  
〒500-8705 岐阜市司町40 TEL058-267-2607 FAX058-265-9026  
E-mail:jhfs2004@cc.gifu-u.ac.jp <http://www.congre.co.jp/jhfs2004/>  
※2004年6月1日(火)より下記に住所を移転いたします。  
〒501-1194 岐阜市柳戸1-1 TEL058-230-6000(代表)

#### プログラム内容

会長講演1題/特別講演1題/プレナリーセッション6題/シンポジウム8題/  
教育講演4題/YIA審査講演/モーニングレクチャー4題/ランチョンセミナー4題/  
サテライトセミナー2題/一般演題/Case Report

#### 外国人講演者

Schaper, J Max-Planck-Institute, Germany  
Schneider, MD Baylor College of Medicine, USA  
Hajjar, RJ Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, USA  
Kajstura, J New York Medical College, USA  
Murry, CE Univ. of Washington, USA  
Zimmermann, WH University Hospital Hamburg-Eppendorf, Germany

#### 会長講演

藤原 久義

#### 特別講演

西川 伸一(理化学研究所発生・再生総合研究センター)

#### プレナリーセッション (英語)

Cell Death and Regeneration in Cardiovascular Diseases  
1. Cell death in cardiovascular diseases  
2. Molecular mechanisms in tissue regeneration  
3. Regeneration therapy to cardiovascular diseases-1  
4. Regeneration therapy to cardiovascular diseases-2  
5. Gene therapy to cardiovascular diseases  
6. Tissue engineering in cardiovascular diseases

#### 心不全治療の現状

1. 心不全治療における両心室ペースングの役割
2. わが国における慢性心不全の診断・治療・予後
3. 慢性心不全の急性増悪の病態と治療
4. 心疾患と無呼吸症候群
5. 心不全時の不整脈管理
6. 心不全に対する外科治療
7. 心不全とサイトカイン・液性因子
8. 心不全に対する臨床治験

#### シンポジウム (日本語)

プレナリーセッションのみ英語で、その他は日本語での口演となります。  
(スライドは和文・英文どちらでも可)  
ただし抄録原稿は Case Report 以外は英語で作成ください。

## [ 一般演題の募集のお知らせ ]

応募受付開始: 2004年3月23日(火)  
 応募締め切り期日: 2004年5月20日(木) 正午

## [ 応募規定 ]

1. 演題はインターネットによる応募のみとします。
2. 演題は未発表のものに限ります。
3. 演題をお申し込みいただくには、共同演者も含め、日本心不全学会の会員であることが必要です。未入会の方は至急、入会手続きをしてください。  
 日本心不全学会のホームページ: <http://www.jhfs.gr.jp/>
4. 抄録はHPに記載した「執筆要項」に従って、英語で作成して下さい。<http://www.congre.co.jp/jhfs2004/>
5. 応募いただいた抄録はプログラム委員会により査読し、採否ならびに発表形式(口述/ポスター)を決定いたします。  
 \*ポスター発表はポスター掲示+座長制による口頭発表形式で構成されます。プレナリーセッション以外の口述発表およびポスター発表の口頭発表、スライドあるいは掲示していただくポスターは日本語、英語のいずれでも結構です。
6. 査読結果ならびに発表形式は、8月中旬までに通知いたします。
7. プレナリーセッション・シンポジウムは、公募いたしません。
8. 応募演題のうち、下記条件に該当する演題を対象に、YIA(Young Investigators Award)へ応募いただくことが可能です。  
 抄録による査読ののち最終候補者数名を選出し、会期中のYIA審査講演により最終選考を行います。  
 最終候補者に選出された時点で略歴ほか必要書類をご請求いたします。

## YIA 応募条件

- 1) 平成15年10月24日(金)現在、筆頭演者(=発表者)が満40歳未満であること  
 ただし、応募者は筆頭演者かつ発表者であり、また、その研究の着想および遂行に重要な役割を果たしたものであること。
- 2) お一人につき1演題のみ、他の論文と重複しないこと
- 3) 平成16年5月20日(木)現在、印刷公表されていない研究であること
- 4) 平成16年5月20日(木)現在、同一内容の研究で他のYIAを受賞していないこと  
 最終候補者に採用されなかった場合、プログラム委員会による査読の上、一般演題としてご発表いただくことが可能です。

## [ 一般演題「症例報告」の募集のお知らせ ]

応募受付開始: 2004年3月23日(火)  
 応募締め切り期日: 2004年5月20日(木) 正午

興味ある心不全症例をご報告下さい。ご発表演題が未発表である必要はございません。  
 セッション予定日時: 平成16年10月1日(金)午後ならびに2日(土)午後

## (1) 申込み

5月20日(木)までに、1)「症例報告」への参加を希望される旨ご明記の上、2)氏名・所属、3)演題名、4)連絡先のメールアドレスを下記宛メールにてお知らせ下さい。

## (2) 抄録提出

日本語抄録をご提出下さい。

- 1) 提出締切: 5月20日(木)
- 2) 抄録は以下の要素で構成して下さい。すべて日本語で結構です。  
 演題名/演者氏名・所属/本文(400字以内)
- 3) Word形式またはテキスト形式で保存し、上記メールに抄録ファイルを添付して下記宛にご提出下さい。

## (3) 採否通知

原則としてプログラム委員会にて査読を行います。ご応募いただいた演題が未発表である必要はございません。結果を7月末までにメールにてご連絡いたします。

## (4) 症例報告として抄録集を作成いたします。

## 【問い合わせ・提出先】

第8回日本心不全学会 演題募集事務局 (株式会社コングレ内 担当: 塚本英治)

E-mail: [jhfs2004@congre.co.jp](mailto:jhfs2004@congre.co.jp)

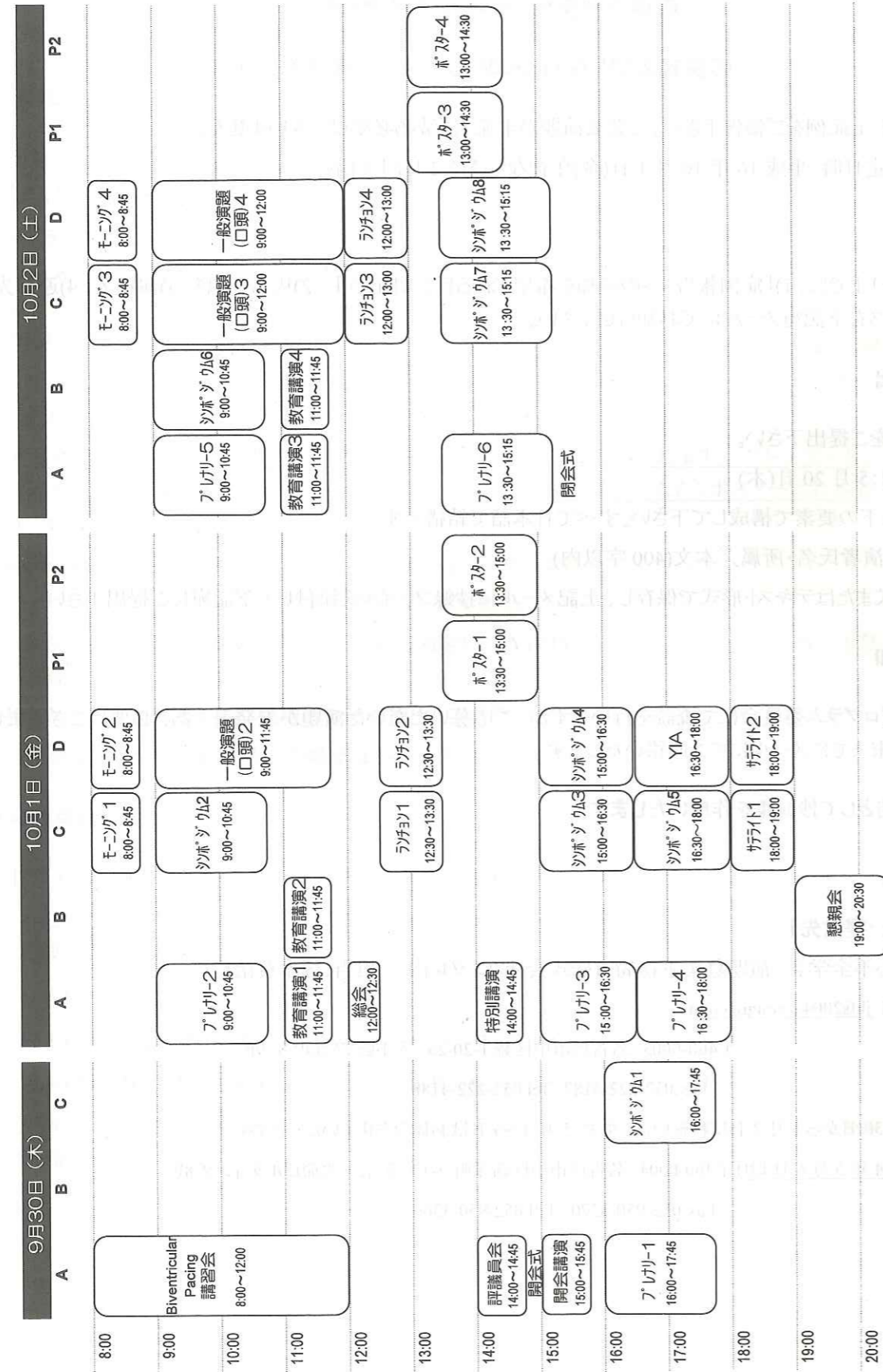
〒460-0003 名古屋市中区錦1-20-25 広小路YMDビル9F

Fax.052-222-4187 Tel.052-222-4188

4月30日から5月2日に移転いたします。5月3~5日はお休みさせていただきます。

(2004年5月6日より) 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-13 栄第一生命ビルディング8F

Fax.052-950-3370 Tel.052-950-3369



# 第8回 日本心不全学会学術集会【宿泊のご案内】

会期：平成16年9月30日(木)～10月2日(土)

このたび「第8回 日本心不全学会学術集会」が、岐阜・長良川国際会議場におきまして開催されます。参加されます皆様の宿泊の手配を名鉄観光サービス株式会社・名古屋中央支店にて取り扱わせて頂くこととなりました。つきましては下記案内をご検討いただき、何卒ご利用賜りますようお願い申し上げます。

## 1. 宿泊のご案内

- 宿泊取扱期間：平成16年9月29日(水)～10月2日(土)
- 宿泊料金条件：1泊朝食付、サービス料・税金込みの一人様あたりの料金です。ツインをご希望の方は、同室者名を必ずご記入ください。料金は、お二人様で1室利用した場合の、お一人様あたりの料金です。尚、事務通信費として1室につき500円を申し受けます

| 地図記号 | ホテル名          | 料金(円)   |         | 最寄駅                 | 会場までの所要時間 |
|------|---------------|---------|---------|---------------------|-----------|
|      |               | シングル    | ツイン     |                     |           |
| ①    | 岐阜ルネッサンスホテル   | ¥14,700 | ¥11,550 | J R岐阜駅下車、タクシー利用約10分 | 隣接        |
| ②    | 岐阜グランドホテル     | ¥15,500 | ¥10,000 | J R岐阜駅下車、タクシー利用約15分 | 車で約5分     |
| ③    | ホテル330 グランド岐阜 | ¥9,500  | ¥9,000  | J R岐阜駅から徒歩5分        | 車で約15分    |
| ④    | グランパレホテル      | ¥8,000  | ¥6,000  | J R岐阜駅から徒歩2分        | 車で約15分    |
| ⑤    | サンルート岐阜       | ¥8,900  | ¥8,600  | J R岐阜駅から徒歩3分        | 車で約15分    |
| ⑥    | 岐阜ワシントンプラザ    | ¥8,500  | ¥8,500  | J R岐阜駅から徒歩8分        | 車で約15分    |
| ⑦    | 岐阜第一ホテル       | ¥7,200  | —       | J R岐阜駅から徒歩8分        | 車で約15分    |
| ⑧    | ニュー岐阜ホテルプラザ   | ¥7,500  | ¥6,000  | J R岐阜駅から徒歩5分        | 車で約15分    |
| ⑨    | ホテルスポーツパルコ    | ¥7,500  | —       | J R岐阜駅下車、タクシー利用約5分  | 車で約15分    |
| ⑩    | コンフォートホテル岐阜   | ¥6,700  | ¥6,400  | J R岐阜駅から徒歩2分        | 車で約15分    |

## 2. 申込方法

別紙申込書にご記入の上、次頁名鉄観光までFAXにてお申し込みください。尚、お申込みはインターネットでも受け付けております。学会ホームページからアクセスしてください。ご希望のホテルが満室の場合は、同等クラスの他のホテルをご案内しますのでご了承ください。

### 3. お支払い方法

宿泊予約確認書等と共に請求明細書をお送りしますので、銀行振込又はクレジットカードにてお支払い願います。送金方法については、申込書に下記のいずれかの支払い方法をご記入ください。

- 銀行振込：請求書が届き次第お振込ください。振込手数料は各自ご負担願います。
- クレジットカード：申込書にカードNo.をご記入の上、FAXしてください。

### 4. 申込締切日 平成16年9月15日(水)

### 5. 取消料

お取り消し及びご変更の際は、お早めにFAXまたは郵送にてご連絡ください。ご予約を取り消された場合、下記の取消料及び通信費を差し引いた残額を後日ご返金いたします。

| 取消日 | 8日前～2日前まで | 前日       | 当日、無連絡(不泊) |
|-----|-----------|----------|------------|
| 取消料 | 宿泊代金の20%  | 宿泊代金の50% | 宿泊代金の100%  |

### 6. 交通について

ご希望に応じてご手配いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

### 7. ご旅行条件(要約)

- 主催旅行契約：この旅行は、名鉄観光サービス株式会社(愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4番8号、国土交通大臣登録第55号。以下「当社」といいます。)が主催するものであり、旅行に参加されるお客様は、当社と主催旅行契約を締結することになります。旅行契約の内容・条件は下記条件及び出発前にお渡しする確定書面及び当社旅行業約款主催旅行契約の部によります。
- 旅行のお申込みおよび契約の成立：所定のお申込書に所定の事項を記入し、FAX又は郵送にてお申込みください。当社が申込書を受領・契約の締結を承諾し、旅行代金を受領したときに成立するものとします。
- 旅行代金の支払い：旅行代金は、旅行出発日の前日から起算してさかのぼって13日前にあたる日より前にお支払いいただきます。
- 旅行代金に含まれるもの：旅行日程に明示した運輸機関の運賃料金、宿泊費用、食事代及び消費税等。  
注：コースに含まれない交通費等の諸費用及び個人的費用は含みません。
- 取消料：取消の時期に応じて所定の取消料が必要です。内容を記載しておりますので、ご参照下さい。
- この旅行条件は2003年12月1日を基準としております。

主催 名鉄観光サービス株式会社国土交通大臣登録第55号  
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4番8号

### 8. 申込書送付先・お問い合わせ先

ご宿泊及び交通に関するお問い合わせは、下記にて承ります。

名鉄観光サービス(株) 名古屋中央支店  
 『第8回 日本心不全学会学術集会』係(担当：山本、橋爪)  
 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-28 第2埼玉ビル1F  
 TEL：052-586-4547/FAX：052-586-4050  
 E-Mail：mecs-nchuo@mwt.co.jp  
 営業時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00(土・日・祝は休業)

平成16年 月 日

## 第8回 日本心不全学会学術集会 【宿泊申込書】

|   |     |
|---|-----|
| フリガナ <input type="checkbox"/> Prof. <input type="checkbox"/> Dr. <input type="checkbox"/> Mr. <input type="checkbox"/> Ms. (口の欄にチェックして下さい。) |     |
| 申込者氏名   |     |
| 所属機関名<br>〒  | 役職  |
| 請求書送付先 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅 (口の欄にチェックして下さい。)  |     |
| TEL   | FAX |
| E-mail  |     |
| フリガナ <input type="checkbox"/> Prof. <input type="checkbox"/> Dr. <input type="checkbox"/> Mr. <input type="checkbox"/> Ms.                  |     |
| 同伴者氏名   |     |

● 宿泊申込 (口の欄にチェックして下さい。)

|          |   |
|----------|---|
| 第1希望ホテル名 | 希望部屋タイプ <input type="checkbox"/> シングル <input type="checkbox"/> ツイン  |
| 第2希望ホテル名 | 希望部屋タイプ <input type="checkbox"/> シングル <input type="checkbox"/> ツイン  |
| 宿泊日      | <input type="checkbox"/> 9/29 <input type="checkbox"/> 9/30 <input type="checkbox"/> 10/1 <input type="checkbox"/> 10/2 |
| 料金       | 宿泊代 ( 円) × 泊 × 名 = 円  |

● お支払い方法 (口の欄にチェックして下さい。)

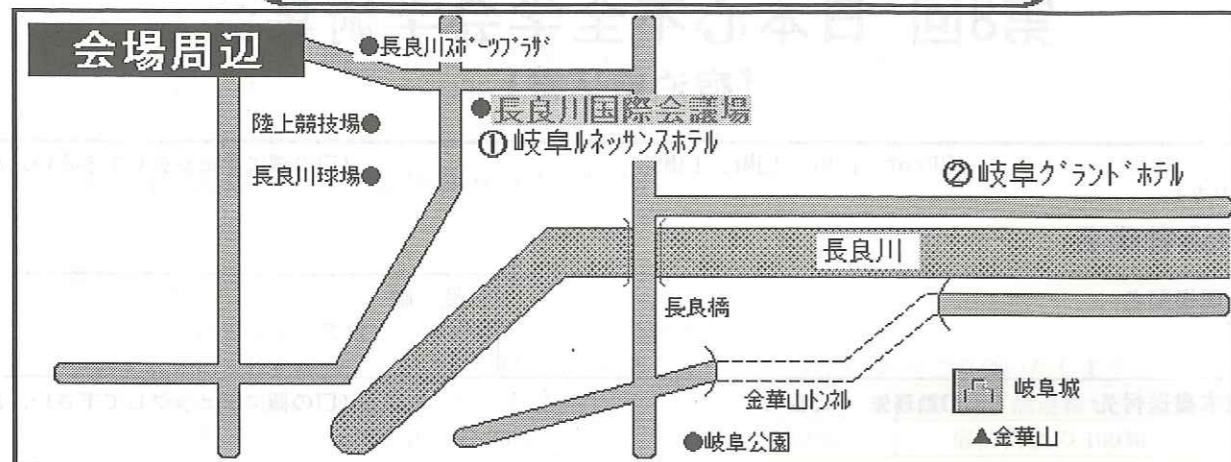
振込 (振込手数料は各自にてご負担下さい。)

クレジットカード (下記に必要事項をご記入下さい。)

|   |           |
|---|-----------|
| 利用カード会社   | 有効期限      |
| <input type="checkbox"/> VISA <input type="checkbox"/> ダイナース <input type="checkbox"/> JCB <input type="checkbox"/> DC <input type="checkbox"/> UC | 200 年 月まで |
| 引き落としカード番号  |           |
| ※ご署名  |           |

名鉄観光サービス株式会社 名古屋中央支店  
 『第8回 日本心不全学会学術集会』係(担当：山本、橋爪)  
 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-28 第2埼玉ビル1F  
 TEL：052-586-4547/FAX：052-586-4050  
 営業時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00 (土・日・祝日は休業)

# 会場とホテル案内



## 会場への交通のご案内

- JR岐阜駅北口から車で15分。  
又は、岐阜駅前より市営バス⑩長良・さぎ山まわり(長良線)乗車、長良川国際会議場北口下車徒歩3分。  
又は、新岐阜駅前より岐阜バス④メモリアル循環線東まわり(行き先表示が黄色のバス)長良橋経由乗車、長良川国際会議場北口下車徒歩3分。
- 東京方面より新幹線をご利用の方…  
名古屋駅にて在来線乗換、JR岐阜駅下車が便利です。
- 大阪方面より新幹線をご利用の方…  
米原・名古屋駅にて在来線乗換、JR岐阜駅下車が便利です。

## 心不全治療のトピックス

# 拡張不全による心不全に対する臨床試験について

山本一博\*1, 増山 理\*2, 堀 正二\*1

\*1大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科, \*2兵庫医科大学循環器内科

### I. はじめに

心不全症例の約40%では左室駆出率が保持されており、このような症例における心不全発症は左室拡張機能障害によるとされ、この病態を「拡張不全 (Diastolic heart failure)」と呼んでいる。左室収縮機能障害による心不全(収縮不全)症例の治療戦略については、エビデンスに基づいた診療ガイドラインの作成が可能となっている。これに対し、拡張不全については十分なエビデンスが蓄積されていない。したがって、各医師の経験的な方針で治療を行わざるを得ないのが現状である。さらに問題なのは、収縮不全と拡張不全は異なる病態として扱うことが提唱されている中で、両者を区別することなく治療を行えばいいと信じている医師が少なくない点である。今後エビデンスが蓄積されれば、その結果として両者の治療方針は同じという結論に至る可能性もある。しかし現段階では、「心不全の治療は収縮不全も拡張不全も同じ」という考えは、本病態に対するエビデンスを得ることの重要性、臨床的意義を見逃してしまうことにつながる、根拠のない誤解である。

これまでに臨床試験はわれわれの日常臨床に大きな影響を与える知見をもたらしてきた。たとえば、1980年代には「心室性期外収縮に対しては、抗不整脈薬を使用して頻度を減らすべきである」と信じて治療を行っていたが、この治療方針は予後の悪化に結びついていたことをCAST試験は示した<sup>1)</sup>。ALLHAT試験は、以前より使用されている降圧薬である利尿薬に比べ、新しいクラスの降圧薬が必ずしも予後を改善するわけではないことを示し、高血圧治療のあり方に一石を投じた<sup>2)</sup>。このような事例はわれわれ臨床医に、臨床的エビデンスを得る努力をすることの意義、重要性を示している。

### II. 拡張不全の臨床像

左室拡張機能が障害されれば、左房から左室への流入障害をきたす。左室に流入した血液が大動脈に駆出されるので、流入障害は心拍出量の低下を招く。する

と、左室拡張機能障害に基づく流入障害を代償し心拍出量を維持するために、流入血液のdriving pressureを上げて流入量を維持する必要が生じ、二次的に左房圧が上昇する。したがって、左室拡張機能障害は、収縮機能障害の有無にかかわらず、肺うっ血、心不全症状を招く直接的要因となる。欧米で行われた疫学調査では、拡張不全の死亡率が、収縮不全より低いとする報告と同等とする報告に分かれている<sup>3)</sup>。ただ、心不全による入院率は収縮不全と同等であるとする報告が多い。同様の結果はわが国の疫学調査でも得られており、拡張不全患者の予後は不良というのが現在のコンセンサスである。

収縮不全とは異なり拡張不全では左室拡大を認めず、主たる基礎心疾患は高血圧性心疾患であり、患者の年齢層が高い。高齢者を追跡調査していくと、心不全のために入院を要した症例の半数以上は左室駆出率が45%以上であることも示されている<sup>4)</sup>。以前は、左室駆出率が保持されている症例において心不全症状が増悪する機序は、後負荷増大などにより左室収縮性が一時的に低下するためであると考えられていたが、Gandhiらはこのような症例の急性心不全期においても左室駆出率の低下は認めず、急性増悪は拡張機能障害の進行によることを示した<sup>5)</sup>。

また、「拡張不全」は「収縮不全」の前段階の軽症の病態であるという考えが持たれているが、「拡張不全」例を経過観察しても「収縮不全」に移行する頻度は低いことも示された<sup>6)</sup>。したがって、われわれ循環器内科医は「収縮不全」と「拡張不全」は異なる病態であることを認識すべきであり、日米欧の循環器学会より出されている心不全治療のガイドラインの中では、いずれにおいても「収縮不全」と「拡張不全」を分けて論じている。

### III. 拡張不全の治療

臨床的に、拡張機能障害を改善することが証明されている薬物はない。かつてはカルシウム拮抗薬であるverapamilに拡張機能改善効果があるとして、肥大型心筋症などに広く使用されていたが、これはver-



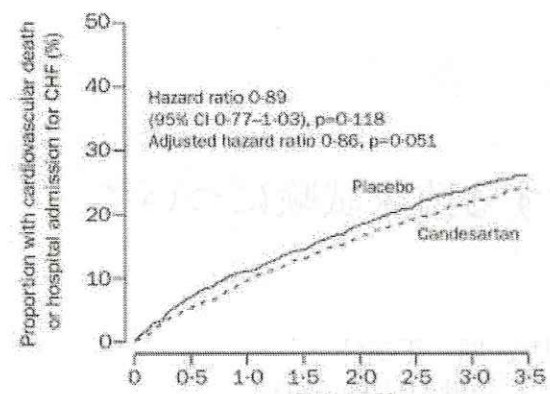


図1 CHARM-Preserved試験において示された、拡張不全症例におけるカンデサルタンの一次エンドポイント(心血管死または心不全による入院)への効果(文献12)より引用)

apamil投与前後における左室流入血流速波形の変化の解釈を誤ったために導き出された誤解であった。verapamilの投与に伴う左室流入血流速波形のE/A増加を、左室拡張機能障害が改善したものにとらえていたが、この変化はverapamil投与によるさらなる拡張機能障害悪化に伴う左房圧上昇のために起こる現象であった。

われわれは、これまでに拡張不全モデル動物を用いて、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシンIIタイプ1受容体拮抗薬、両者の併用療法は、降圧効果とは独立した機序で拡張不全治療に有効であることを示した<sup>8-10</sup>。Chenらは retrospectiveな研究ではあるが、拡張不全症例ではアンジオテンシン変換酵素阻害薬投与が予後改善と結びついていることを報告している<sup>11</sup>。拡張不全に対する薬物療法のエビデンスを示す初の大規模試験であるCHARM-Preserved試験が2003年に発表され、アンジオテンシンII受容体拮抗薬であるカンデサルタン投与が、心不全による総入院件数を低下させることが報告された<sup>12</sup>。ただし、カンデサルタン投与では、一次エンドポイントである心血管死または心不全による入院を減少させることにはつながらなかった(図1)。これらの知見は、拡張不全においてレニン-アンジオテンシン系の作用を遮断することの重要性を示唆する。Chenらはアンジオテンシン変換酵素阻害薬とならび、β遮断薬投与も予後改善と結びついていることを報告しており<sup>11</sup>、β遮断薬も拡張不全に対する治療選択肢の候補と考えられる。ただし、このようなポジティブデータばかりではない。Dautermanらは、拡張不全ではアンジオテンシン変換酵素阻害薬に有効性は見出せないと報告している<sup>13</sup>。CHARM-Preserved試験において一次エンドポイントに有意差を認めなかった点も考慮すると、拡張不全に対する治療方針については、現段階ではコンセンサスを得られているものはない、とするのが正



図2 J-DHF試験における群分けのシェーマ図。なお、アンジオテンシン変換酵素阻害薬に割り付けられた症例の中で、空咳などのためにアンジオテンシン変換酵素阻害薬に対する忍容性がない場合で、かつ高血圧症を有する場合はアンジオテンシンII受容体拮抗薬への変更を行う。ACEI:アンジオテンシン変換酵素阻害薬, ARB:アンジオテンシンII受容体拮抗薬

しい記述である。現在、拡張不全を対象とした介入試験としては、アンジオテンシン変換酵素阻害薬あるいはアンジオテンシンII受容体拮抗薬の効果を検討するものとして、I-PRESERVE, PEP-CHF, Hong Kong Diastolic Heart Failure Studyが行われており、β遮断薬の効果を検討するものとして、SWEDIC, SENIORSが行われている。わが国においても、拡張不全に対するβ遮断薬、アンジオテンシン変換酵素阻害薬の有効性を比較検討する大規模試験であるJ-DHF Studyが平成16年度から実施される(図2)。J-DHFは、わが国における拡張不全に関するエビデンスにつながるのみならず、いまだ欧米を含めて拡張不全の治療に関するエビデンスが乏しいことを考慮すると、わが国から海外に対してエビデンスを発信することにもつながると期待される。そして、これらの大規模介入試験をもとに、エビデンスに基づいた拡張不全のガイドライン作成が行われると考えられる。

文 献

1) Echt DS, Liebson PR, Mitchell LB, et al. Mortality and morbidity in patients receiving encainide, flecainide, or placebo. The Cardiac Arrhythmia Suppression Trial. N Engl J Med 324: 781-788, 1991.  
 2) The ALLHAT Officers and Coordinators for the ALLHAT Collaborative Research Group. Major outcomes in high-risk hypertensive patients randomized to angiotensin-converting enzyme inhibitor or calcium channel blocker vs diuretic: the Antihypertensive and Lipid-Lowering Treatment to Prevent Heart Attack Trial (ALLHAT). JAMA 288: 2981-2997, 2002.  
 3) Hogg K, Swedberg K, McMurray JJV. Heart failure with preserved left ventricular systolic function. J Am Coll Cardiol 43: 317-327, 2004.  
 4) Tsutsui H, Tsuchihashi M, Takeshita A. Mortality and readmission of hospitalized patients with congestive heart failure and preserved versus depressed systolic

function. Am J Cardiol 88: 530-533, 2001.  
 5) Aurigemma GP, Gottdiener JS, Shemanski L, et al. Predictive value of systolic and diastolic function for incident congestive heart failure in the elderly: the Cardiovascular Health Study. J Am Coll Cardiol 37: 1042-1048, 2001.  
 6) Gandhi SK, Powers JC, Nomeir AM, et al. The pathogenesis of acute pulmonary edema associated with hypertension. N Engl J Med 344: 17-22, 2001.  
 7) Ennezat PV, Ennezat CA, Malendowicz S, et al. From systolic to diastolic chronic heart failure (Abst). J Am Coll Cardiol 35 (Suppl A):163A, 2000.  
 8) Sakata Y, Masuyama T, Yamamoto K, et al. Renin angiotensin system-dependent hypertrophy as a contributor to heart failure in hypertensive rats: different characteristics from renin angiotensin system-independent hypertrophy. J Am Coll Cardiol 37: 293-299, 2001.  
 9) Sakata Y, Yamamoto K, Mano T, et al. Temocapril prevents transition to diastolic heart failure in rats even

if initiated after appearance of LV hypertrophy and diastolic dysfunction. Cardiovasc Res 57: 757-765, 2003.  
 10) Yoshida J, Yamamoto K, Mano T, et al. AT1 receptor blocker added to ACE inhibitor provides benefits at advanced stage of hypertensive diastolic heart failure. Hypertension 43: 686-691, 2004.  
 11) Chen HH, Lainchbury JG, Senni M, et al. Diastolic heart failure in the community: clinical profile, natural history, therapy, and impact of proposed diagnostic criteria. J Card Fail 8: 279-287, 2002.  
 12) Yusuf S, Pfeffer MA, Swedberg K, et al. Effects of candesartan in patients with chronic heart failure and preserved left-ventricular ejection fraction: the CHARM-Preserved Trial. Lancet 362: 777-781, 2003.  
 13) Dauterman KW, Go AS, Rowell R, et al. Congestive heart failure with preserved systolic function in a state wide sample of community hospitals. J Card Fail 7: 221-228, 2001.

学会カレンダー (2004年)

| 開催日       | 学会名                   | 会長                           | 所属   | 会場                      |
|-----------|-----------------------|------------------------------|--|-------------------------|
| 4月8日~10日  | 第63回日本医学放射線学会         | 隈崎達夫                         | 日本医科大学<br>放射線医学                                    | パシフィコ横浜<br>(横浜市)        |
| 4月8日~10日  | 第101回日本内科学会           | 溝口秀昭                         | 東京女子医科大学<br>血液内科学                                  | 東京国際フォーラム<br>(東京都)      |
| 4月22日~24日 | 第15回日本心エコー図学会         | 平井寛則                         | 東邦大学大橋病院<br>臨床生理機能学                                | 日本都市センター<br>(東京都)       |
| 5月13日~15日 | 第47回日本糖尿病学会           | 岩本安彦                         | 東京女子医科大学<br>糖尿病センター                                | 東京国際フォーラム<br>(東京都)      |
| 5月17日~19日 | 第77回日本超音波医学会          | 伊東紘一                         | 自治医科大学<br>臨床検査医学                                   | 栃木県総合文化センター (宇都宮市)      |
| 5月19日~21日 | 第43回日本エム・イー学会         | 山越憲一                         | 金沢大学工学部<br>人間・機械工学科                                | 石川厚生年金会館<br>(金沢市)       |
| 5月27日~29日 | 第19回日本心臓ペースング・電気生理学学会 | 相澤義房                         | 新潟大学第一内科   | 朱鷺メッセ<br>(新潟市)          |
| 5月29日     | 第25回心臓核医学研究会          | 松崎益徳                         | 山口大学<br>器官制御医科学                                    | アクロス福岡<br>(福岡市)         |
| 6月2日~4日   | 第81回日本生理学会            | 青木 藩<br>富瀬規嗣<br>本間研一<br>福島菊郎 | 札幌医科大学生理学<br>札幌医科大学生理学<br>北海道大学統合生理学<br>北海道大学統合生理学 | 札幌コンベンション<br>センター (札幌市) |
| 6月11日~12日 | 第25回日本循環制御医学会         | 公文啓二                         | 国立函館病院   | 函館大沼プリンスホテル (函館市)       |
| 6月12日     | 第34回臨床心臓電気生理研究会       | 家坂義人                         | 土浦協同病院<br>循環器センター                                  | 経団連会館<br>(東京都)          |
| 6月16日~18日 | 第46回日本老年医学会           | 福地義之助                        | 順天堂大学<br>呼吸器内科                                     | 幕張メッセ<br>(千葉市)          |
| 6月19日     | 第24回ホルター心電図研究会        | 中居賢司                         | 岩手医科大学<br>臨床検査医学講座                                 | 岩手医科大学<br>(盛岡市)         |
| 6月28日~29日 | 第10回血管内治療学会           | 児玉和久                         | 大阪警察病院<br>循環器科                                     | 大阪国際会議場<br>(大阪市)        |
| 7月1日~4日   | 第13回日本心血管インターベンション学会  | 加藤 修                         | 豊橋ハートセンター  | 名古屋国際会議場<br>(名古屋市)      |
| 7月17日     | 第25回冠不全研究会            | 細田泰之                         | 新東京病院  | イイノホール<br>(東京都)         |
| 7月23日~24日 | 第36回日本動脈硬化学会          | 居石克夫                         | 九州大学<br>病理病態学                                      | 福岡国際会議場<br>(福岡市)        |
| 9月4日      | 第10回日本心臓リハビリテーション学会   | 和泉 徹                         | 北里大学内科学  | 北里大学L-3号館 4階 (相模原市)     |
| 9月13日~14日 | 第21回日本心電学会            | 大江 透                         | 岡山大学循環器内科  | 国立京都国際会館<br>(京都市)       |
| 9月13日~15日 | 第52回日本心臓病学会           | 中野 昶                         | 三重大学第一内科   | 国立京都国際会館<br>(京都市)       |
| 9月16日~18日 | 第40回日本移植学会            | 清水信義                         | 岡山大学<br>腫瘍・胸部外科学                                   | 岡山コンベンション<br>センター (岡山市) |
| 9月23日~25日 | 第4回日本心血管カテーテル治療学会     | 多々見良三                        | 舞鶴共済病院<br>循環器科                                     | 国立京都国際会館<br>(京都市)       |
| 10月5日~7日  | 第42回日本人工臓器学会          | 工藤龍彦                         | 東京医科大学<br>八王子医療センター                                | 京王プラザホテル<br>(東京都)       |

News Letter 編集事務局より  
お知らせ

2001年より、日本心不全学会 NewsLetter の発行に関する業務は、学会の出版・編集委員会が企画し、(財)日本学会事務センターにある学会事務局が発行業務を担当することになりました。現在「心不全研究の最前線」、「心不全治療のトピックス」、「海外研究室紹介」、「学会カレンダー」を掲載しており、多くの先生に大変好評をいただいております。原稿をいただいた先生方には、あらためまして厚く御礼申し上げます。

今後とも、さらに内容の充実をめざしていきたいと考えております。企画に関しまして、ご意見・ご提案などございましたら、下記編集事務局までご連絡いただければ幸いに存じます。会員の諸先生方のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

出版・編集委員会委員長  
竹下 彰

日本心不全学会 News Letter 編集事務局担当  
筒井裕之

日本心不全学会 NewsLetter 編集事務局の連絡先

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学大学院医学系研究院 循環器内科学  
日本心不全学会 News Letter 編集事務局  
筒井裕之・深松洋子  
TEL: 092-642-5360 FAX: 092-642-5374  
E-mail: prehiro@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp

日本心不全学会入会のご案内

本学会は、心不全ならびにこれらに関連する分野の研究発表の場を提供し、知識や情報の交換を行うことによって心不全に関する研究を推進し、わが国における医学の発展に寄与することを目的としております。平成8年に設立、今年で7年が経過いたしました。

本会のさらなる充実に向け、会員の増強を行っております。ご入会を希望される方がおられましたら、是非ご紹介くださいますようお願いいたします。

▶ 会員の特典

1. 日本心不全学会と米国心不全学会の共通の機関誌 "Journal of Cardiac Failure" が配布されます。
2. ニュースレターが年4回配布されます。

▶ 入会手続き

下記事務局宛にご連絡ください。折り返し「入会申込書」をお送りいたします。または、巻末の入会申込書にご記入いただき、FAXにて送信ください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9  
(財)日本学会事務センター内 日本心不全学会事務局  
TEL: 03-5814-5810 FAX: 03-5814-5825

▶ 年会費

正会員 10,000円

▶ 会費の送金方法について

入会申込書を返送していただいてから1カ月以内に請求書を発行しますので、最寄りの郵便局または銀行よりお振込みください。

日本心不全学会 News Letter Vol. 8, No. 1

2004年4月1日発行

編集・発行 ● 日本心不全学会

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センター C21  
財団法人 日本学会事務センター内  
TEL: 03-5814-5801 FAX: 03-5814-5820  
http://www.jhfs.gr.jp/

製作 ● 財団法人 日本学会事務センター 学術情報事業部

〒113-8531 東京都文京区本郷3-22-5 住友不動産本郷ビル7F